（別紙様式）

令和3年度　学校自己評価システムシート　（ 県立和光南特別支援学校 ）

W46

目指す学校像	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進し、「生きる力」を育成する学校

重点目標	1 充実した授業づくり 2 開かれた学校づくり 3 健康で安全な学校づくり 4 進路指導の充実

達成度		
	A	ほぼ達成　（8割以上）
	B	概ね達成　（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分　（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学校自己評価							
年度目標					年度評価（2月3日）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 平成３１年度から２年間にわたり、研究部を中心とした学校研究において新学習指導要領に対応した実践研究に取り組んできた。 【課題】 今後は、ＰＤＣＡサイクルの手法を活用し、指導内容や指導方法、評価等の見直し及び改善を行う必要がある。 ついては、実施方法や内容等を検討しながら教育課程の更なる充実を図り、研修会等をとおして新学習指導要領の理解を深める取組の実施が課題となる	・学校研究のテーマである「主体的・対話的で深い学びの視点で考える」授業実践の充実	①新学指導要領の下、授業実践、研究を行い、PDCAサイクル手法による授業の質の向上を図る。 ②新学習指導要領についての理解を深める研修会を実施し、教育活動の質的向上につなげる。	職員及び保護者アンケートで次の質問の肯定回答を評価指標とする。評価の目安は、肯定回答80％以上をA、80～60％をB、60～40％をC、それ以下をDとする。 ①PDCAサイクルをもとに授業研究を行い、「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいた授業を実践できたか。 ②新学習指導要領に関する理解を深める研修会が実施できたか。 ②新学習指導要領に基づいたねらいや評価等を指導案や授業内容に反映できたか。			
2	【現状】 ケース会議等の実施は、校内関係者や外部関係機関と常に連携し、適宜実施してきており、地域社会において、本校への一定の評価はあるものと考えられる。一方、HPなどによる本校の情報発信はさらに充実させる余地がある。 【課題】 今後更に、近隣他校の必要に応じた支援の充実、早期の就学相談の実施、本校のセンター的機能の発揮及び充実を図っていきたい。	・センター的機能の一環として、校内外の障害特性から行動に課題のある児童生徒等に対しての対応を組織的に実施する	①障害特性から行動に課題のある児童生徒等に対して、校内外、地域の関係機関と連携し、適宜ケース会議、相談等行う。 ②和光市、朝霞市、新座市等の学校へ訪問し、指導助言等を行う中で障害児者への理解を深める。	①特に課題のある児童生徒に対して、適切なアドバイス、ケース会議等は適宜に実施され、対応できたか。 ②学校訪問を行い、課題に応じた指導助言ができたか。			
		・ホームページ等を活用した学校教育活動の積極的な発信	①ホームページを活用しやすいように整備する。 ②個人情報に配慮しつつ、学校情報を積極的に更新する。 ③メールやホームページの保護者向け連絡機能を有効活用し、必要な情報を適宜提供する。	①ホームページ等を活用しやすいように整備できたか。 ②月に1度以上を目安に教育活動、通知等の情報発信ができたか。 ③家庭のメール登録が100％に近づけられたか。 ホームページ掲載前に保護者へメール発信するなど必要な情報を適宜提供できたか。			
3	【現状】 昨年度は、学校管理下における感染対策を徹底して行ってきた。 また、高等部の生徒減（学区再編）に伴い、教職員減となり、校務分掌等の枠が職員数と合わない状況が生じている。 【課題】 今年度も引き続き感染予防を徹底する他、事故等の未然防止のための具体的な取組が必要である。 また、業務内容を見直し、効率化を図りながら分掌の合併等を検討することが課題である。	・安心安全な学校生活のため、教育環境に配慮し、無事故、新型コロナウイルス無感染を目指す。	①全教職員でヒヤリハット案件を共有し、学校全体で組織的に事故の未然防止策や解決策を共有する。 ②学校内の消毒、手洗い、マスク着用等の指導を徹底し、感染予防対策に取り組む。	①ヒヤリハット案件について、組織的に事故の未然防止に役立て、事故は0(ゼロ)であったか。 ②学校管理下において、新型コロナウイルスの感染者は0(ゼロ)であったか。			
		・職員減に伴い、校内分掌の仕事の見直し、効率化を図り、分掌組織の統合・合併を行う。	①仕事の偏りをできるだけ均等化することと仕事の効率化を図るため、分掌の仕事内容の見直し、分掌組織の統合・合併を検討する。	①分掌等の仕事内容の見直し、効率化は行えたか。 ①分掌組織を統合・合併できたか。			
4	【現状】 外部の関係機関と連携して、保護者の進路希望のニーズに寄り添った進路指導を推進している。 その他、「職業教育フェア」の幹事校としての役割が期待されている。 【課題】 進路目標が多様化する生徒に対応して、進路実現を目指すために、校内組織の連携を深め、さらにニーズに応じた進路希望の実現が課題となる。 また、「職業教育フェア」の幹事校として、県内の特別支援学校や関係機関と連携し、スムーズな運営、実施が課題である。	・就労先の求めている力を的確に把握し、生徒の適性を見極め、個に応じた進路実現を図る。	①各市関係課、ハローワーク、商工会等の外部関係機関と連携し、教育に求められる力を把握し、進路指導に活かす。	①進路先で求められる力を把握し、生徒への進路指導に活かすことができたか。 ①本人、保護者の意向と適性を把握し、個に応じた進路指導を実現できたか。 ①外部機関と連携し、適切な情報提供を行えたか。			
		・幹事校として「職業教育フェア」を滞りなく運営・実施する。	①職業教育フェアの目的に則り、県内の特別支援学校や関係諸機関と連携し、障害児者理解の促進と進路拡大に向け滞りなく「職業教育フェア」の運営を行う。	①「職業教育フェア」を円滑に運営・実施できたか			

学校関係者評価
実施日令和　年　月　日
学校関係者からの意見・要望・評価等